異世界とチート能力

ファイナルトム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界とチート能力

【Ｎコード】

Ｎ５１４０Ｖ

【作者名】

ファイナルトム

【あらすじ】

先祖代々国家に従う一家に駄目５男として生まれた軍事・アニメ好きな南雲村雨は、大学から帰る途中に領空侵犯を犯したロシア軍のＰＡＫ－ＦＡの墜落に巻き込まれてしまった。神様により異世界へ飛ばされた村雨はチート能力と神様製ｉＰｈｏｎｅと共に異世界で生きていく。

プロローグ

僕は現在、変な空間にいる。何故、こうなってしまったのかは、少々遡る。

だいたい5分くらい前に市原市のゲオでＡｃｅ　Ｃｏｍｂａｔ　Ａｓｓａｕｌｔ　Ｈｏｒｉｚｏｎ限定版を購入し、五井駅に向かおうと思った途中であった。最初の交差点に差し掛かった所、真上からＰＡＫ－ＦＡ（恐らく領空侵犯機）が降ってきて死んでしまった。

音はどうしたって？全然、聞こえなかったさ。たまたま→を向いたら１００ｍ以内に迫っていたからね。ＥＭＰ・・・な訳ないか。

「いつまで語っておるのだ？」

突如、背後より白いひげの中国風の爺さんが話しかけてくる。

「わ！驚いたじゃないか！」

唐突過ぎた為、少々飛び上がってしまうが、直ぐに気を取り直し・・・

「ははは！若者はええのう！」

「あんた誰？」

「神様じゃ。」

は？神様？とうとう狂ったオカルト野郎まで現れるようになったか！

「信じてないようじゃな！」

「用件はなんです？オカルト爺さん！」
「オカルト言うな！本物じゃぞ！ホ・ン・モ・ノ！ということで本題に入るが・・・」
少々、考え込む姿勢が見られ緊張しながら耳を傾けると急に土下座をしてきた。
「すまぬ！ワシの部下が領空侵犯したＰＡＫ－ＦＡに憑依して遊んでしまったのだ！」
「憑依かよ！出来んのか！」
「トランスフォーマー・・・なんつって・・・」
殺気が湧き出て、ショルダースルーを食らわしたくなったが、運動音痴に無理だ・・・
「遊んだ挙句、飽きたらポイとか・・・どんだけ身勝手なんだ？」
「一応、そいつは１年間の冷凍刑にしたが・・・新しい生を受けるか？」
「元の世界に戻れるのか？」
「新しい世界で生きるかどうかだ。いわば異世界て奴じゃな。ゼロの使い魔とかアスタロッテのおもちゃとかＤＯＧ　ＤＡＹＳとかでもあったろう？」
「何故知っている？」
「一応、仕事が終わったら見ているからな！それよりどうするのだ？」
「条件付きでもいいですか？」
「勿論！お詫びとして希望する事をいいたまえ。」
小説家になろうでもよくトリップ物を呼んでいた為、リアルに乗じてみようと思った村雨であった。

神様・・・オカルトオタク神様に提案したのは以下である。
1、死ぬ前に所持していたｉＰｈｏｎｅの完全再現。（これが無いと通信できなくても不安になる・・・）
2、連絡・メールは出来なくともインターネットのみ使用可能に。（インターネットなしでは駄目！依存症ではないけどね・・・）
3、インターネット回線は常時Ｗｉ－Ｆｉと同じ接続状態に！（こうしないとＹｏｕＴｕｂｅとかニコニコ動画が死ぬｗ）
4、ｉＰｈｏｎｅに召喚機能搭載。（カメラを通じて武器だろうが兵器だろうがグレムリン宮殿だろうアニメ系だろうが召喚可能にする。）
5、身体能力の上昇（全航空機の操縦が可能になる程度）及び１９００年代～の架空兵器含む全軍事兵器の全般の知識及び操縦可能になれるようにする。
6、生命力を死ぬ前の倍に。
7、ｉＰｈｏｎｅの耐久力を無敵及び電池永久無限。更に手放したら1時間以内に手元に戻るように。
8．・・・２０まで続いた。

顔を見るとポカーンな顔をしており、思ったどおりだった。
こんな無理難題な提案についてダメかとは思っていたが、意外と快諾してくれた。

「それでは名前なんだっけ？」
「南雲村雨。」
「よし！南雲村雨よ！新たな冒険の始まりだ！２次元世界とか混じった世界へＧＯ！幸運を祈る！」
「・・・・・・お、おお。」
「因みに管轄はかの有名な東方Ｐｒｏｊｅｃｔのキャラクターが管理している世界だからね。何かあったら女神界の史書イストワール

に聞くがいい！」
「え？あんたじゃないの？」
「全ての神を統べるのはイストワールなり！ではＧｏｏｄ　Ｂｙｅ！」

目の前が真っ白になっていく・・・

村雨、大地に立つ！

目が覚めると、どう見ても大森林の中であった。

「神め！」

一応、このことから神と言う事は認めたが、管理能力に関しては許せなかった。

「ここは・・・何処だ？樹海か？」

周りを見渡すが、道という道は無く、樹海に迷い込んだ感じであった。

「とりあえず進むか・・・」

独り言連発でむなしくなってくる気がした為、ひたすら前へ進む。すると、約２ｋｍ歩いた所でようやく道に出ると、そこには４人ぐらい盗賊がたむろしていた。気づいたのは１５ｍ手前であったが道を見つけた事に心の中ではしゃいでしまいあっけなく見つかってしまった。

「兄ちゃん、金目の物を置いて生きな！」

「運がいい野郎だぜ。盗賊ギルド『ジークフリード』だから殺しは無いぜ。」

ああ、、、なんでこのシチュエーションなんだ？

手持ちの武器は出発後に出したＭ９２Ｆとマガジン４倉ぐらいで、

相手は1人が弓で3人が剣を装備している。勝てない事はないがテロリストとして排除するか逃走するか・・・2択に1択・・・

でも盗賊＝テロリストならいいんじゃねぇ？

「断る！大体、あんたらテロリストに渡す金品はねぇ！」

「テロリストってなんだ？」

「さぁ？」

「面どくせぇ！とっととやっちまおうぜ！」

その1人が襲ってきた為、1発足下へ発砲し、威嚇する。

「ま、魔法か！？」

「奴の持っているあれっすよ！」

「面白い物をもっているんじゃねぇか！」

余計な関心引いちゃったかな？銃がない世界に恐ろしさは分からないか・・・身で感じないとね。

「あれを奪い取るぞ！」

一斉に襲いかかって来たが、情けは無用・・・4発撃ち盗賊は息絶えた。

初めての殺人にして、あまりいい気分ではないものの直ぐにこの場を立ち去った。

道なりに歩いていると様々な人達と交差したが、服装的にやや目立っている感じであった。相手はイスラム風だったり朝鮮風だったり中世洋風だったりとバリエーションが豊富であった。

約３ｋｍ歩くと・・・迷ってしまった。山の中の深い森・・・獣道によって構成されている道をひたすら歩いて行った。そこでまた盗賊５人とエンカウントした。

勿論、護身用にいつの間にか召喚したＭＰ７の前に倒れたが・・・

生き残った女盗賊から聞き出した情報によると過激派盗賊系ギルド「カンブリアン」所属で、１時間前にサンバルディオ帝国の騎士団の奇襲を受け、略奪しつつ逃走中だったとのこと。サンバルディオ帝国に関して情報を引き出すと完全なる宗教国家であり、建国当時よりガーリア教を信仰している。これがまた最悪で、信仰しない民は非国民扱いされ、国外追放又は洗脳教育を受ける他、男性は死か奴隷、女性は浄化（凌辱）又は性奴隷となる。又、侵略に関しては非信仰国家を邪教として捉えられ虐殺も異端者排除の名目で認められる。平民からは正義、貴族からは汚職し放題、兵士からすればやりたい放題可能、王族からすれば強大と最悪で聞いていられなかった。彼女は異端者として捕えられ、逃げた際に、ギルドへ入ったのだという。強気のある子であり、殺さなかった理由は単なる消極的な女好きということである。又、極力殺さないこともある。

「ありがとう・・・ここの共通通貨は？」

「それも知らないのかい？この世界の共通通貨はレナウンだよ。」

「すまないな。なんせ最近になってから世を知ろうと旅しているみだからな。」

盗賊ギルドから手を引く事を促し、獣道を進んでいくと、何やら燃える臭いが・・・火事か！

走って行くと案の定、燃えていた。村が・・・そこから聞こえてくる悲鳴に怒鳴り声。

ネイキッド・スネーク並みの動きで村に近づくと、重厚な鎧を着た兵士が女性の服を破り凌辱している姿に、男性の首を刎ねたり、馬で引きづり回したり、弓の練習台にされたりと地獄以上の地獄であった。老人たちは焼かれ、子供は馬車で連れ去られてしまった。

兵士の数は２０人・・・マガジンの弾薬を確認し、突撃を敢行する。

「まだ居た・・・」

その兵士は最後まで言葉を発すこと無く銃弾に倒れる。

「魔法を使っているぞ！殺せ！」

「用心しろ！」

女性を凌辱していた兵士に関しては、もの凄いヒートアップしていた。が、そいつらも銃弾に倒れることとなる。振り上げる剣が届くことは一切無く、敵兵は完全に制圧された。

村の人達は助かった事に安堵し、僕に近づいてくると神扱いされかかった。

しばらくして、村の人たちは遺体の処理に場所の移動の準備をする等の行動に取り掛かっていた。僕は遺体の処理を手伝う事にして集団墓地へ一人ずつ入れて行った。この村での人口は男女で８４人程であり、現在は２０人しかいなく、男性は全員が死亡か逃走のどちらかであった。

ティール村破壊命令

他人の遺体を見るのはなんとも言えないな。残されたのは若奥さんや未婚の少女達ばかりであった。

遺体は埋葬するのかと思いきや村の掟で火葬との事だった。若奥さんによると５００年前までは土葬であったが、この村の種族は死んでから時間が立つと伝染病が流行ってしまう事が判明し、火葬へと変更になった。因みに種族はウィザエルフ族とのこと。

ウィザエルフ族・・・エルフ族系統であり絶滅寸前種族。基本は山中で生活を形成しており、通常のエルフより生命力が高く魔力が高い（生まれつき）。成長すると、如何なる事をしようが必ず写真モデル並みの美女となる。それが災いとなっており、様々な人達に狙われることが多い。誘拐が耐えず奴隷としても高く売れ、１人につきフルカスタムのフェラーリ・イタリアが４台買えるぐらいである。世界総人口は２０人程。村より連れ去られた子供は奴隷となるか性奴隷のどちらかの可能性が高い。
男性については特筆事項はない。

因みに、反人間種族であるが、村雨に限って救ってくれた事もあり、抵抗はない。

犠牲者に冥福を祈ると再び村の復興作業の手伝いに戻り、今後の行き先を考えた。

しかし、考えてもきりがないから、とりえあず村の復興を手伝い、１００％になってから考えることとした。だが、この人数で・・・この種族の男性は絶滅してしまったことで人口はあげるのは困難で

あろう。この世界には寿命という概念はない・・・いや、神界繁殖科によって生殖操作されているというべきだろう。人口がそれなりに減少すれば繁殖科によって子供ができる人が選ばれ、お産ができる。その子供は決められた年齢に達すると何かしらの原因で死ぬまでその年齢で生き続ける。因みにルールで種族の男性が絶滅すると女性は生殖機能が停止という残酷なルールがある。一部の種族では特別視されているだとか・・・いわゆるハーフが組める。

なんかｉＰｈｏｎｅのメールに繁殖科課長ビィーナスさんからのメールがあった。

勿論、この世界の人たちは知らない為、このシステムに疑問は持っていないようだ。生殖できる人は脇腹部分に超細かいあざのような印により判明する。妊娠後に消滅する。ちょっと理解するのに難しかったが・・・ちなみに僕は１８歳で年が完全に停止しており、〇〜の生殖機能は停止している。希望時のみ機能するらしい・・・どんだけ特別扱いされているんだが・・・ちなみに若奥さんは１５００年生きており、夫婦生活は１３００年続いていたという。

ちょっと思い出したのだが、あのＰＡＫ－ＦＡのエンブレム・・・一瞬であったが、でっかくプーチン大統領の絵が描かれていた。

「疲れちゃった？」

「え？ああ・・・すいません。考え事です。」

話がそれてしまったが、あの惨劇があったのに村の皆・・・彼女達はすっかり明るくなっていた。あの後、いろんな人に知らぬうちに覚えた言葉のケアを送っていたら明るくなっていた。

「まさか人間が人間にね・・・」

「戦争でよくあると思いますが？」
「私たちはこの山から1歩も出たことないから戦に関してはちんぷんかんぷんよ。」

＝＝サンバルディオ軍　ティール山討伐キャンプ＝＝

「俺は夢話を聞いているのか？」

そう言ったのはサンバルディオ軍異端者討伐騎士団団長のギルバルン・フォルガンであった。突撃屋として世界的に名が高く、最も恐れられている将軍である。突撃しかしない能無しであるが、呂布以上の武力を持つ事が恐れられているのが原因。

「いえ・・・異端者の村を壊滅まで追い込んだ筈の兵士の遺体が大草原にさらされておりました。」
「許さん！断じて許さん！伝令によると男は全員殺したのでは？」
「いえ、伝令が一部始終を目撃してます。突然、１人の人間の男が乱入し、たった1人で全滅させたのを目撃しております。しかも強力で未知なる魔法道具を使っているのも目撃しております。」
「魔法だろうが関係ない。魔石ガルバルディアンで作られた万能鎧の敵ではない。」
「出陣だ！」
「全部隊出動だ。」

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝

休憩時間の為、前世で持っていたＰＳＰ－３０００を召喚し、エースコンバットＸ２に興じている。スレイマニダンスに惑わされ、無駄に精神が付かれいた。

ようやく、スレイマニを撃墜で来た所で、一人の娘が村雨の所へ走ってくると、新たな任務が発生した。

話によると、山の頂上で周囲の様子を見ていたら、帝国軍の大部隊が、見えていたというのだ。

丁度、村の西門から見えるということで、すぐに向かうと軽い坂になっており、３００ｍ先より一体が大草原となっている。目の前の大草原の中央には完全に大部隊が目視で来ており、現代戦からすればただの的であった。

若奥さん達に何らかの箱を持ってきてもらうと早速準備に取りかかる。召喚したのはブローニングＭ２機関銃（スコープ付き）にヘリガンナー仕様のＧＡＵ－１７／Ａを召喚し、更に分隊支援型のＸＭ８を多数召喚し、侵攻に備える。完全に使い捨て前提で配置している。リロードなんてしていたらここまで来てしまう恐れがあるためだ。

ウィザエルフ達を屋内へ避難を促し、攻撃態勢に入る。Ｔｏｔａｌ　Ｗａｒ経験者として戦の始まる前に必ず演説がある為、そこを狙う。多分・・・怒るだろうな。

馬で派手に動いている人物に照準を合わせ、発砲する・・・

＝＝討伐部隊＝＝

その放たれた１２．７ｍｍ×９９　徹甲弾は・・・見事に演説兵の頭を吹き飛ばしていた。

「まさか・・・魔法か！？全軍突撃せよ！雪崩の如くやってしまえ！」

それと同時に小隊長は部隊を見た瞬間、混乱に陥っていた。
徹甲弾は人体を貫き、残酷な姿へ変貌していた。次々と倒れていく兵士達に山の方から向かってくる光・・・魔法としか思えない光景であった。完全に陸上版のノルマンディー状態であった。

それでも怯えない兵士は次々と突撃を開始した。全てはギルバルンの存在が戦場での恐怖をやわらげていたのだ。

ところどころより飛来してくる曳光弾は兵士達に魔法という疑問をますます高めることとなった。

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝
ブローニングＭ２を撃ち尽くした後、ＧＡＵ－１７／Ａの出番をシフトする。驚異的な連射力を期待しつつ、撃ち始める。只でさえ、１２．７ｍｍ薬莢の上に７．６２ｍｍ弾が上乗せされていった。敵は魔法対策の為、散会しているが、このミニガンの前では意味のない事であった。最も、敵に分かるはずがないが。
目の前の草原には数えきれない程の死体が確認できており、それでもまだ数百人規模の兵士が向かって来ていた。ミニガンは弾薬切れとなり、今度は分隊支援型ＸＭ８に切り替え、ハイポッド固定のバレットストームとなった。

最終的に敵は１人の将軍と思わしき人を残し、全滅という結果になっていた。その将軍も前を見失っている様子が見受けられ、そのまま長剣を振り回しながら接近してきたが、最後の５．５６ｍｍ弾を心臓部に撃ち込み、絶命した。

距離は約３００ｍ程で森の入口で力尽きたのだった。

「丸で大量虐殺だな・・・前世だったら死刑もんだな。」
「こ、これは！！！」
「・・・・・・」

後ろから若奥さんを始め住人が目の前に広がる地獄に真っ青になっており、僕は何も言えなかった。

「君が・・・一体どうやって？」
「これらを使ってです。すぐに出ていきます・・・」

銃を収納しようと思ったら、逆にまた来てください的なムードとなり、少々戸惑ってしまった。

「貴方は私達の英雄よ。ここに住んでも誰も文句は言わないし、いつでも歓迎するわ！」

村長となった娘っ子がそう言うと続けて、、、

「これは何ていう武器ですか？初めて見ますし、異国の武器ですよね？」
「銃という武器です。いわば弓同様飛び道具の一種です。違うとすればまっすぐ飛ぶと言えば分かると思います。」
「先程の戦闘で物すごい音が何十分も続いていたのって？」
「はい、これらからの銃の発砲音です。」

試しに一発近くの木に撃つと、目に見えぬ速さで木に的確に命中していた事に物凄く驚いていた様子が見受けられていた。

これからはどうするか、考えた結果、旅を続ける事ととした。もう

この村に誰も侵入することがないだろうと断言しても良かった。何せ、サンバルディオ軍3個師団を壊滅させた村なんて噂が広まるはずだし・・・

皆に別れを告げ、次の街へ出発した。まだまだ始まったばかりだ！

登場人物紹介（予定者含む）　※今後の予定系ネタばれ注意！　書くなって？ぇ

一応、予定人物です。期待しない方がいいです・・・
ゲスト人物ですが、原作ストーリーとは全く関連はありません。

登場人物紹介（予定者含む）　※今後の予定系ネタばれ注意！　書くなって？

主人公
名前：南雲村雨
年齢：１８
代々国に従える一家の５男として生まれたが、才能は無く、趣味的な意味で家族からは冷遇な感じになっている。領空侵犯したＰＡＫ－ＦＡの墜落事故に巻き込まれ死亡。葬式では誰も泣かず、墓も山奥におかれている。
異世界へ生を受けてからは年齢は永遠に１８歳となり神製ｉＰｈｏｎｅを片手にセカンドライフを楽しむ。
女性関係は少々苦手であり、告白できないレベルである。高校の卒業式に好きな娘に告白しようと思ったが、見失ってしまったという経験がる。女性の誘惑に弱い・・・因みに誘惑されると性欲が急上昇してしまう。
軍事・アニメが好きであり、軍事関係品はよく召喚してしまう傾向がある。又、使い方も時折、軍隊泣かせな事も・・・タイフーンをテント代わりに使ったりとか・・・
因みに女好き。
死してからは何故か女神界と強い絆を勝手に結ばれている。又、干渉できるようになっている。

メインヒロイン
名前：フィリア・バルディアル＝ハルロン・Ｓ・サンバルディオ
年齢：１８
サンバルディオ帝国第８王女。生まれながら才能に恵まれず、姉達からは見下され、父からは完全に見はなされるという悲しい事実がある。又、王とは親戚関係であり、これも災いとなり、大臣から達も見下されている。王は全く無視しているが・・・

唯一の友が専属のメイドとアサシンであり、幼き頃から強い絆で結ばれるほどである。
村雨との出会いはアサシンが誘拐して来た事がきっかけであり、協力を経て、外へ行き、共に旅をする事となる。
才能は無いものの、現代軍の装備の殆どを短時間で使いこなしてしまうという隠された能力がある。

以下、簡易
名前：エルフィ・フェルシュトル
リブファール王国に住むエルフ族の狩人。国では有名な弓の使い手でもう猛獣を狩りながら生計を立てている。彼女の持つ美貌はリブファール王国で名が広いが、男性からは避けられがちな事が多い。

以下、登場予定ゲスト、、、
名前：ジャンヌ・グルノーブ
リブファール王国の姫騎士であり、魔法と剣技に優れる勝気な姫というのが本来の姿であるが、この世界では性格が少々変化している。
容姿は他の原作系人物と同じく変わらない。
村雨がアニメ・ゲーム登場人物がこの世界にいることを証明できたきっかけとなった人物である。

名前：ユーリ・ローウェル
みんな大好きＴＯＶの主人公。異世界の異世界テルカ・リュミーレスの帝都ザーフィアスに住んでいる、元騎士。

名前：パティ・フルール
ＴＯＶより登場。テルカ・リュミーレスにてフィアルティア号の船長を務めており、旅人の旅をサポートする仕事をやっている。何故か村雨との遭遇率が高い。

名前：クリント
ギルド『魔狩りの剣』の首領であり、かなりの巨漢。始祖の隷長討伐に執着するのは変わらず・・・弾グレスト周辺にてモンスターを狩っていた村雨の銃に目を付け、始祖の隷長討伐に銃を要求・協力を求めたことで因縁を付けることとなる。

名前：史書イストワール
ネプテューヌより登場。女神界を統べる史書。唯一の異世界人である村雨の旅をサポートする。ＦＡＱや相談にも乗ってくれたりと特別視している。村雨の要求には疑問を持たない。

名前：四季映姫
東方Ｐｒｏｊｅｃｔより登場。普段は楽園最高の裁判長であるが、村雨の旅を全力でサポートしている。

異端者極秘連行命令

サンバルディオ帝国ではある事件により騒然となっていた。異端者討伐隊長ギルバルン・フォルガンの死は国に大きな傷跡を残し、同時に弱体化を招いた。貴族達では他国の侵略に危惧する者が出現し、民からは新たな時代の幕開けと考え始める人が出現した。城では評議会が緊急の招集をかけ、穴埋めの対策に乗り出す。この緊急事態の最中、ある王女はアグレッシブな事を考えていた。

「クロスティアちゃん！」
「姫・・・その呼び方はやめてください！」
「うふふ、この騒ぎの原因は分かっているわね？」
「はい。ギルバルン・フォルガン将軍の死した事です。」
「彼を殺した者を捜し、連れて来なさい。但し、極秘で・・・生かして捕らえよ。」
「分かりました。」

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝
ティール村を出発して６時間が立つ。それまでに多数の魔物を相手していたが、Ｍ４の敵では無かった。軍用のコンパスを見ると西方向へ進むのを確認すると、ユーロファイター・タイフーンを召喚し、操縦席にて休息をとるが、何という無駄な使い方・・・

暫くして、タイフーンを収納し、再び旅路へ足を進めるが、流石に腹が減ったｏｒｚ

と思ったら、通りすがりの美少女が話しかけて来て、ティール山での戦いのの事を聞かれる。無害だと思って安易に話すと、貰ったのは強力すぎる腹パンに強力な力で首元を叩かれ意識を失ってしまっ

た。

＝＝村雨　ｓｉｄｅ　一時停止＝＝

＝＝クロスティア　ｓｉｄｅ＝＝

「まさかこんなにあっさり見つけるなんて思わなかったわ（^＿^；）。」

と思ったクロスティアはこの男が女好きという事を悟り、首都への道へ歩み始めた。途中で馬車に乗り換え、問題なく進んでいた。

４時間後、首都し正門に到着すると検問に差し掛かる。本来ならば、堂々と侍女と言えば通してくれるのだが、極秘任務であるのと、積荷的な意味で明かせなかった。

「中身は何だ？」

しかも寄りにもよってアジアン系の荒っぽい兵士・・・

「５００ｋｇクラスの国産ビッグパンサーの肉です。」

「貴重すぎるな・・・」

突然、剣で荷物の中を突き刺し始め、グサっ！！と・・・剣に血がついていた。

「あ・・・」

「しっかり公開しないからこうなる！さっさと行け！」

流石に真っ青な顔となっていり、一通りのない裏路地へ行くと、慌て様子を伺うが、幸いにも腕に刺さった程度であり、脈からも外れていたため、止血程度で済んだ。言い訳に迷ったが・・・その時は

その時で。

この後、城に入る時は身分証で大丈夫であった。

馬を置いてから、姫様の居室までは袋に入れて行ったが、所々の視線を感じ、落としそうになっていた。

＝＝フィリア　ｓｉｄｅ＝＝

待ちに待ち続け、ようやくクロスティアが連れてくると、直ぐにふっかふかの姫専用ベッドに横にする。腕に巻かれた包帯を見た際に、専属メイドであるミューリに新鮮な包帯を取り替えてもらっている。

「この傷は？」

「申し訳ありません。正門にの検問にて兵士がつけてしまいました。」

「そう・・・」

因みに痣も同時に確認しており、これについて問うとおもいっきり叩いてしまったとのこと・・・

「これではいつ目が覚めるのやら・・・」

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝　運ばれて４日後、、、朝

何があったのか分からないが物凄く気持ちがいいベッドで寝ているのに気づき慌てて起き上がると、見知らぬ部屋にいたのだった。

ここは何処だ？・・・確か、少女に話しかけられてから覚えてない・・・

状況確認の為、周囲を見ると見知らぬ超美少女がこちらを見ている。

「やっと起きたみたいわね。中々、起きないから心配したけど元気で何より。」
「誰ですか？」
「私はフィリア・バルディアル＝ハルロン・Ｓ・サンバルディオ。この国、サンバルディオ帝国第８王女よ。」
「僕は南雲村雨と申します・・・ただの平民の僕に何か？」
「平民１人が７０００もの兵士と世界最強の武将を１人で相手して、全滅させるなんて出来るかしら？」
「ギク・・・！」
「事実みたいわね。別に殺すなんて事は考えてないけど頼みを聞いてほしいの。」

ちょっと恐怖心と異様な不安感が襲っているが、顔に出すことはできない。

「頼みとは？」
「私を誘拐してください。」

は？誘拐・・・王女を誘拐だと？余計に殺されるわ！

「もうこの生活にうんざりしていたの。姉さん達や城の者からは無能姫として見下される毎日に飽き飽きしていたから旅をしたいと思っていたの。」
「なるほど・・・永遠に城から出たいという事ですね。」
「そういう事。」
「城の地図はありますか？」
「あるわ。」

城の地図を出してもらい、確認すると、何処ぞやのダンジョンの如

く複雑すぎており、急いで外を確認すると約１０Ｆぐらいの高さであった。真下は湖となっているが、どうやら湖の中に処刑用の巨大な鮫が用意されているとか・・・

とりあえず、１日時間を貰い、プランを立てるのだった。

これからに関して

ということで脱出作戦開始！

今回の使用道具はというと、、、

Ｍｋ．２３改（麻酔弾）
巨大段ボール
スタンガン

ＭＧＳな装備となっている。

勿論、フィリア姫はこれらの道具を見て？？？な顔をしているが、丁寧に説明して用途を説明し、行動を開始する。

とりあえず、結果だけ言おう・・・ざる警備すぎて何とも言えず、わずか１０分で城から脱出したのだった。

とりあえず、宿屋を探し１日隠れることとする。一緒について来た、専属アサシンとメイドは姫様と話し合い、城へ戻らず、２人でギルドで生活していくとのことであった。

此方はというと・・・姫様の望み通り、旅人となり世界を見ていくということで決定した。

部屋に入ると、まずは着替えから始まった。

ｉＰｈｏｎｅより姫様・・・（怒られましたｏｒｚ）

フィリアに衣類を選んでもらい、何故かアメリカ海兵隊のＡＣＵ迷

彩セット（市街地戦仕様）となった。さすがに目立つとは思ったが、この世界自体奇怪な格好で歩く人は多い為、大丈夫だろうと思っている。材質と色的な意味で注目されると思うが・・・
僕はというとアメリカ陸軍ＡＣＵ迷彩（市街地戦仕様）にしておく。

＞＞Ｎｅｘｔ　Ｄａｙｓ＜＜

朝より街中で噂が広まっていた。それは姫様が行方不明という事であったが、フィリアは既に王女という職を捨てた為、関係ない。
とりあえず、急いでサンバルディオ帝国から離れる事を最優先事項とし、西門からの脱出を決定する。
まぁ、結局ザル警備だった訳で、兵士２～３人程麻酔銃でＯＫだったけどね。

サンバルディオ領ビリジース平原は帝国首都より５ｋｍ先にある世界三大平原の一つである。この平原では多数の魔物が生息し、大人しい魔物がいれば凶暴な魔物がいる。

ここまで来るのに時間はかからず、目的は・・・道中にて、銃の扱い方を学びたいことであった。脱出劇よりひたすら使いまくっているのを見ているうちに興味を持ったようで、宿屋での武器のカタログ（写真だけ）を見たことがつぼを押したらしい。

中でもＨＫ４１６が気に入ったようで、この見通しの良い平原にて訓練につきあうのだった。体力面は幼少の頃より剣術で鍛えているとのことで、反動等への対応は問題無かった。因みにやけに腕が良く、初弾で５００ｍ先の的に命中するぐらいで、現代に対する素質があるように感じた。

一応、彼女のリクエストで各武装の射撃訓練を一緒に行う。使用された銃器はＭ１６Ａ４、ＦＡ－ＭＡＳ　Ｇ２、Ｍ１９１１、Ｍ９２

F、Mk．23、P90、M4、MG36、M249、M82、AW－50、M700、NTW－20等様々な銃器の射撃訓練を行い、AT－4、ジャベリン、スティンガー、SMAW、カールグスタフ等も使用し、地面が少々悲鳴を上げているようであった。
因みにジャベリンのターゲットはT－36、スティンガーのターゲットは無人機である。

あまりの轟音に人が集まってくる感じもした為、この場所を後にして東へ向かう。最初の目的地・・・リブファール王国へ。

フィリアの話によると現在は休戦状態であり、平原は元々、リブファール王国の領土だったが、サンバルディオ帝国の異端国排除の大義名分での戦争で奪ったという。

＝＝Next Days＝＝

リブファール国境地帯では厳重な警備が敷かれていた。最近、サンバルディオ帝国からのスパイが激しいだとかで血の気を上げて、警備・検問が行われていた。

「旅人方、申し訳ありません。手荷物検査を行いますので、武器類はこちらに置いて下さい。」

銃を置くと、兵士達は奇妙な目で銃を眺めている。

「これは・・・武器なのか？」
「これって・・・似たような武器が遥か南の国家で研究中という事は聞いたが・・・」

やけに注目しており完全に職務を忘れているようだが、ある女性の

声で兵士達は慌てて職務に戻った。

「し、失礼しました！では手荷物を・・・これは？」
「ｉＰｈｏｎｅというです。」
「あいふぉん？なんなんだ？」
「えっとですね・・・遠くの人とお話をしたり、音楽を聴いたりとできる道具・・・」
「にわかに信じられぬが、危害はないようだな。」

ｉＰｈｏｎｅはＯＫと次は軍用の道具を一式確認すると・・・

「君たちはこの世界の住人なのかね？」
「彼女はこの世界の住人ですけど、僕は異世界から来ました。」
「異世界だと！？異世界にこんな道具があるなんて聞いた事ないぞ！」
「恐らくこの世界とは繋がる事がない世界から来た・・・と言えば。」

とりあえず、時間は掛ったが、異世界に適応できている兵士ばかりでＧＯサインを貰い出発しようした所、最後に質問が来る。

「それはどこの国の服なんだ？」
「これはアメリカ合衆国陸軍のＡＣＵ迷彩という軍服です。」
「これが軍服とは・・・装甲が殆ど無いではないか。」

この様な世界では装甲がない軍服なんてありえない事だった。解説には時間を掛けたが、流石に気を使ってくれたのか、途中で謝って職務へ戻って行った。

それから３０分後、ゴブリンとオーク集団に囲まれたものの銃の前

に敵は無く、４０匹全ての敵を排除し、ついでに何処ぞやの姫騎士を救出する。

「先程の・・・助かりました。感謝します。」
「いえ、救助は優先しなければならない事ですから。」
「奇妙な武器を使う旅人なんて初めて見ますけど、その武器はまた斬新的というかなんというか。」
「立ち話もなんですし近くの町まで案内してもらえますか？」
「喜んで。私はジャンヌ・グルノーブと申します。」
「フィリア・フェンサーです。」
「南雲村雨です。よろ・・・」

心の底で大騒ぎしてしまった。目の前にエロゲーの登場人物が堂々といたのだ。ある意味信じられなかったが、本物であった。

「どうかなさいましたか？」
「いえ、何でもないです。」

近くの町へ向かって出発し、辿り着いた先は小さな城が立つ町であった。

「我がリブファール首都へようこそ。」
「最も近い町って・・・サンバルディオ帝国はどこまで領土を・・・」

実際、サンバルディオ帝国の魔の手はここまで迫っていたが、ジャンヌの活躍により奇跡の勝利を遂げたのだった。
町でジャンヌと分かれ、宿屋にて一緒の部屋で泊まることとした。
実際は男女の関係上、別室の方がいいのだが、一人で寝るのが不安とのことで一緒の部屋に泊まることとなった。

魔物討伐依頼

次の日の朝。

激しくドアを叩く音がした為、開けると見知らぬ人間が立っており、どうやら魔物の討伐を依頼しにきたとか・・・理由を聞くと、変った平凡な少年と絶世の美女の旅人が変わった武器を持って旅しているとの噂を聞いたとか。

やっぱり噂って中世時代でもっとも優秀な情報・・・な訳ないか。

リブファール国のとある山の中の村で村長をやっているとのことだが、最近より高等知能を持ったオーク族が出現し、村を破壊しては女性を誘拐しては性欲処理の道具にしているとのことで討伐を出す事となった。戦闘力は人間の7倍に匹敵し、その体は剣を通すことすら不可能ということであった。

依頼を快諾したが、この国までエロゲー設定か？これ・・・

5時間後、山中の依頼通り、オーク族出現地点に向かい討伐することとした。今回の武装はＡＴ－４、Ｍ８２Ａ１、ＳＭＡＷとしている。剣を貫けないなら銃弾で貫く。

森の中を歩き、一つの洞窟を発見した。近づこうにも骸骨だらけで飾られており、オークたちのセンスを疑ったが、これから死ぬ相手にセンスは不要である。

洞窟の中にＡＴ－４をおみまいすると、慌てて洞窟から出てくるオークたちを確認。

お楽しみ中だったのか血の気を変えてフィリア目掛けて突進するも、フィリアの持つＭ８２Ａ１の１２．７ｍｍ弾の前に倒れる。それに続き僕も発砲、次々と倒れて行き、リロード中にフィリアを見ると・・・

そこにはＭ８２Ａ１を片手で撃っている姿が！・・・何処の桐生一馬だ？というかリロードスタイルが・・・もう説明出来ん！絶対前世は西部劇のガンマンだろ！

結局、こっちは９体。フィリアは２３体も倒していた。

村雨
命中率：８７％
スコア：２２４０

フィリア
命中率：９９％
スコア：５８９０

余計なメール送るな！っと何故かグリーンハートからメールが来ていた。

排除が終わったところで、洞窟へ侵入する。中は少々薄暗いが、松明が所々立っており、終点には多数の女性の姿が見られていた。

ギリギリのラインだったらしく数秒遅れていたらやられていたらしい。中にやられ過ぎて精神を錯乱してしまった人もいるが、フィリアの治療魔法によって気を取り戻した。

帰途につく際に、武器をＭＰ７に変更し、索敵を行いながら外へ出る。ここで女性達と分かれ、こちらは宿屋へ戻るところであった。ちょっと気になったことがあったため、イストワールへメール質問すると、あの高知能のオーク族はあの戦いで絶滅したらしい・・・あっけねぇ・・・

次の日、、、

コンコン！とノックがした為、開けると今度はゴブリン軍団の排除依頼であり受諾する。目的地は首都周辺であり、１時間もしないうちに完了し、宿屋へ戻る。実際の所有時間は２３分で使用武器はＭ４とＸＭ８のみであった。

それから３時間後、酒場（ジュースを飲んでいる状況）で変ったカップルとして魔物の討伐を依頼してくる。カップルじゃないっつーの！と思いつつ依頼内容は盗賊ことテロリストの排除であった。場所は城の近くの廃屋敷で受けた情報にはサンバルディオ帝国が絡んでいるとか・・・依頼人の正体はリブファール王国の諜報部の一兵士で廃屋敷の入り口にサンバルディオの旗を持った農民が出入りするのを発見し、張り込んでいたという。持ち歩く武器も尋常では無く、武器の形状は宗教絡みと思わせる刃が見られた事から調査の依頼を決断したのだという。
受諾し、早速、屋敷へ向かうと以外と広い屋敷であり、隠れ家にうってつけな形をしている。侵入すると、屋敷からの妙な視線を感じながら入口へ向かうとターゲットは素直に出現してくれた。

「我が屋敷にようこそ・・・我が名はウィルディアンと申す。」
「南雲村雨です。スパイがいるとの情報を受け調査しにきました。」
笑顔でスパイらしい偽物貴族に話しかけるも、気の固い御仁であっ

た。

「ここにスパイはおらんよ・・・帰ってもらおう。」

剣を引っこ抜くが・・・

「ウィルディアン宗将よ。」

フィリアが唐突に声を掛けると、何かに動揺したのか視線をフィリアに向ける。

「宗将とは・・・何の事を・・・」

「私の顔を見忘れたかしら？」

暴れん坊将軍になりそうな予感・・・余の顔を見忘れたか？なんつって・・・

「な！ひ、姫様！！！失礼しました！」

頭を下げる、宗将であったが、頭を上げた途端、フィリアに対して睨みつけると殺意を上げながら騒ぐ・・・

「こいつは姫の名を語る偽物だ！者共、であえ！であえ！こやつらを斬れ！」

ああ・・・やっぱり来たよこれｏｒｚ

脳内で暴れん坊将軍のＢＧＭが流れるが、流石にリアルはちょっと・・・ということで３２人くらいの敵をデザートイーグル（フィリア）とグロック１７（村雨）で完全に制圧した。ウィルディアン宗将は

どさくさまぎれに逃亡してしまったが、暫くは他国へ侵入することはないだろう。それにしても暴れん坊将軍見てたのか？あの将軍・・・まさかね・・・

それと！フィリアァァァァァァ！

「どうしたのいきなり・・・」

「片手1本で大口径拳銃を撃つなんて聞いたこと無いぞ！」

「あまりにも撃ちやすかったからつい・・・」

フィリアパフォーマンスについていけない村雨であった。

英雄ですか！？

リブファール国首都を後にした２人はがいるブリトン帝国へ向かうこととした。旅の目的の１つは安住の地を探すことであった。フィリアの様子を見る限り、２度と帝国へ戻る気はないらしい。

彼女の目を見る限りね・・・

ブリトン帝国は経済・軍事共に強大な力を持つ帝国であり、この大陸『グランディア』唯一の海洋国家でもある。国全体で貿易が盛んで、あらゆる人々が集まり、物凄く賑やかな街と聞いているがどのようなものか気になってしまう！軍事面では大陸最強と言われる長弓射手に近衛騎士の養成を行っており、海軍では世界でトップ５に入るとのこと。ガレオン船、ガレー船、戦列艦、火炎放射船、爆破工作船と種類は豊富である。又、火薬の研究もしており、既に艦船用の大砲を開発し、対人用の大砲も首都城壁に配備している。

ブリトン帝国へ向かう提案をしたのはフィリアである・・・ど素人の僕では決められない＜＞

ブリトン帝国から別大陸へ行ける定期船に乗ることのみである。

道中は平原や森林が続き、すれ違う旅人やギルドの人達を見つつ、盗賊や魔物を成敗しつつ歩いていると遠くで馬車が襲われているのを確認した。護衛の兵士の様子からみて精鋭揃いという事が見受けられ、救出の為、ＦＡ－ＭＡＳ　Ｇ２とＭ２４９で武装し、突撃する。密集しているため、誤射しないよう注意しつつ・・・

＝＝馬車　ｓｉｄｅ＝＝

これは不運だろうか？かの残虐非道な盗賊『スターリン』に襲われている・・・彼らは村を襲っては奪い殺し、女性に淫らな行為を行っては、殺すと聞いた。

「姫を守れ！」

「所詮は盗賊風情だ！」

精鋭達は盗賊を見下しているようだが、余裕を持っていた近衛兵士は次々と死んでいく・・・この盗賊達は只者ではない・・・そう思わざるを得なかった。そして私の側室護衛官も既に・・・無様姿で。

「これで・・・終わりなの？」

そう思った時、聞いたこともない音が響く。気になり、外を見ると盗賊が次々と倒れている！

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝

久しぶりのトリガーハッピーだぜ！Ｍ２４９を乱射し、次々と盗賊を殺していく。

フィリアもＦＡ－ＭＡＳからＭＰ７に切り替え制圧射撃を行っていた。勿論、盗賊は銃の知識など無く、まっすぐこちらに突っ込んでくるが、銃の前に倒れていった。襲撃時は１２０人近くいたらしいが、残り２０人まで減っていた。

流石に怯えた盗賊は逃走を開始するも、最後の１人も憐みを感じつつ逃がさずに射殺する。この救出戦で使った銃弾は合計で４００発を越えていた。

馬車に近づくとドアが開き出て来たのは、耳が横に長い美少女が出

て来る。如何にもお姫様という感じだ。

「ご助力感謝致します。」

「いえ、当然の事をしたまでです。」

因みに生き残ったのはこの姫君と騎手のみである。

「私からも礼を申し上げます。助かりました。」

「災難でしたね。」

「しかし、その武器は一体・・・」

「出来れば気にしないで頂きたいです（＾＾；；」

「そうですか・・・私はヴィルヘルム共和国特務官のシュヴァルツです。」

「僕は南雲村雨です。こちらがフィリアです。」

「申し遅れましたが、私はヴィルヘルム第2王女ガネッサ・D・ヴィルヘルムです。よろしければ我が国へ招待したいのですが。」

「ご好意感謝します。ですが、自分たちは旅の途中ですので気持ちだけ貰います。良ければ近くの村だけでもお教えて頂けないでしょうか？」

「シュヴァルツ、確か貴方の故郷があったわね。」

「ここから先に進みますとベルリン村があります。環境が自慢の村ですので気に入って頂けれると思います。」

「感謝します！貴殿らの幸運をお祈り致します。」

「こちらこそお祈り致します。」

別れを告げ、ベルリン村という村に向かう。ヴィルヘルム共和国はドイツ系列っぽいな・・・前世世界と違いすぎるかも・・・ベルリン村か・・・ベルリンね～

教えられた方角へ真っ直ぐ進むと村があり、ここがベルリン村だろ

う。入り口に標識が立ってあるが僕には読めない・・・

「ここがベルリン村よ。」

ここがかよ！何処ぞやのドラクエのようなシンプルな村すぎていた。あまりにもシンプルすぎ！そして人がいない！

村へ一歩踏み入ると、新郎新婦が入場の如く、お祭りとなっており、村人の一人が英雄のご来村だ！と騒いでいる・・・

思わず目を丸くしてしまった。何事かと思い、ある若造に聞くと、盗賊団『スターリン』を壊滅させた英雄の歓迎だとか・・・というかスターリンて・・・突っ込むの疲れたわｏｒｚ

とりあえず、歓迎を受けて、祭りに参加させてもらう。

それから数時間後、祭りは終了し、村らしい状態に戻っていた。しっかし、質問が多すぎて疲れてしまった。特にホルスターに入っているＭｋ．２３についてね・・・

宿屋へ足を運び部屋を借りると、勝手にＶＩＰ待遇の部屋に格安値段（フィリア調べ）で入ることとなった。流石、英雄・・・いいのかな？という感情があった。

その夜・・・

「なあ、フィリア。これを見てくれ」

異世界に来て以来、愛用の富士通ノートＰＣを召喚し、リアルタイムで前世世界あらゆる場所を見ることができる女神製ソフト『Ｇｏｄ　Ｅａｒｔｈ』を開き、フィリアにドイツ連邦共和国のベルリン

を見せるとやけに驚いた顔をしていた。因みに現地時間は１２：３２・・・

元々は女神界にて人間社会を見る為の機能をソフト化したものであるがネプテューヌから送られて来た。メッセージには暇つぶしにどうぞと・・・いいのか？

ちなみに人類の歴史数千年分、収録されている。リアル関ヶ原の戦いもみれたする。

「これって前世の何処？」
「ベルリン。」
「へ？ベルリンって・・・」
「僕のいた世界のベルリン・・・」
「凄い・・・というか前世世界が見れるなんて・・・ここと次元が違いすぎるわね。」

正直、自分も驚いていたさ。このようにリアルタイムで世界を見れるなんて。

因みに人一人の行動からＣＩＡやペンタゴン、テロリスト本部内部まで見る事が出来、まさにゴッドアイである。

ついでにペンタゴン宛てにアルカイダの活動拠点をチクって３０分後くらいかな？最も、近いイージス艦からタクティカル・トマホーク巡航ミサイルが発射されて派手に吹き飛んでいた。何故、このメールを受け付けたかは不明であるが・・・まぁ、近くにフランス軍が巡回していたから良しとするか。

次の日は、やはり英雄と言う事で・・・依頼が１件舞い込んできた。

どうせ普通の魔物退治かと思いきや、キングベヒーモス集団の退治であった。しかも2人でって・・・絵からしてFF13級のキングベヒーモスだな。共和国最大の騎士が退治に向かったが全滅・・・依頼主はヴィルヘルム共和国ヒトラー騎士団団長ハイル・ヒトラー・・・

全く・・・何処から突っ込めばいいのか分からなくなったよ。騎士団名？名前？もういいや・・・

その他の情報で多数のゴブリンにそれを統率するゴブリンチーフにゴブリンプリンセス、オークにオーガ、巨大クロコダイル、グールにガストがいるとのこと。いくらなんでも無理があるぞ！進行ルートはヴィルヘルム国最大の貿易都市ドルトムントと予測とのこと。ヴィルヘルム共和国自体度々魔物の脅威にさられており、モンスターによる壊滅は珍しくないとか・・・ドルトムントは大陸最大の防衛力を保持しており、大陸で初の城壁用の１００ｍｍカノン砲を配備している。ただ、今回の進行は異例の事で、３０００年を誇るヒトラー騎士団が壊滅するのは異常という。

ヒトラー騎士団は対上級モンスター討伐専門騎士団で編成は最新で８０００名程でどれも上級魔法及び強豪揃いという。特殊部隊クラスの訓練を受けている部隊。

依頼人は承諾待ちの為、外で待ってくれていた為、早速声をかけてみる。

「ヒトラーそ・・・騎士団長ですね？」

正直、声をかけなくても良かった。なんせ、顔までそっくりでちょび髭まであった。きている鎧にはハーケンクロイツに似たマークもあった。

「そうだ。ぜひ我が国を救って頂きたい！」
「やってみますが・・・無理がありませんか？」
「私が噂を信じて見込んだのだ。頼むぞ・・・最低でも王国の兵士が来るまでで良い！」

そう言うとボロボロの馬にのって去って行ってしまった。

女神界からの兵士

女神界の軍
あの依頼を引き受けたのはいいものの、如何せん数が多すぎる。これまでの幾度もの敵やモンスターと戦火を交えていたが、あの数は異常だろ・・・しかもレベルが違いすぎる。ここまでの集団には統率者もいるだろうけど・・・

勝手ながらイストワールに直接電話で聞くと、「少々お待ち下さい。」と言い残して電話を切った。一応、期限は1週間以内だが、そこまで余裕あるのか不明。

約3時間後、、、少々？

目の前に光が降ってきたと思いきや、そこに現れたのはロックマンXのアクセルの様な装備をした兵士が出現した。

「初めまして、村雨元帥。」

げ、げ、げ、元帥！？

「まずかったですか？では、村雨さん。女神界軍事部門より送られてきました者です。何なりと命令を！」

その近未来の装備を施している兵士は通称『ユリシーズ』と呼ばれる兵士だ。いかにもロックマンに出てきそうな感じであり、前世にて脳内アニメで想像していた兵士と瓜二つと変わらない。神界には３０００万もの同様の兵士を保持しており、女神界の防衛及び幻想郷の防衛の一部を任されている。因みに兵科別に分けられている。

現代戦のエキスパートで構成されており、創造方式で造られていく。クローン兵みたいな感じだが、１体１体に人間と変わらない性格を持っており、個々の意志で動いている。
小隊長はアーマードコア風の未来的重装甲を着た女性・・・妖精であった。彼女の暗号名は「セラフ」であり、本名はヴィクトリア・F・アイギストス。ちょっとアガレスト戦記２のヴィクトリアに似ているかも・・・部隊長ぽい。
互いに自己紹介を済ませ、人数を数えると約１０名であったが、丁度いいと言えよう。

今回、空を使うつもりだ。

作戦はＡＨ－６４Ｄを用いて制圧するつもりだ。初の異世界を飛ぶという業をこなしてみたい。

早速、半分わくわくしながら召喚する。

今まで気にしてなかったが、召喚する際に、搭載武装も選べる。本来、搭載不可能な武装も神様補正でＲ－７７とかＡＩＭ－９ＸやＡＩＭ－１２０Ｂとか搭載可能。流石にＩＣＢＭやＶ２とか大型のミサイルは神様が頑張ろうが、無理難題である・・・（当たり前か。まぁ、あまり見たくないな・・・弾道ミサイルぶら下げた攻撃ヘリなんて。）
デフォルトは固定武装のみ。

今回の作戦では［ヘルファイア×８、ロケットポッド×２］を全６機に搭載させることとした。

コールサインはトリップとする。

女神界の協力にて軍事衛星を軌道に配置し、備えを万全にし、イザ召喚！

攻撃ヘリを見たフィリアは・・・もの凄く疑問形の顔だった。

「村雨君、これは？」

「これはヘリコプターという乗り物で、これは軍用の攻撃ヘリさ。詳しい事はこのマニュアルを参照してくれ。」

女神さま製のＡＨ－６４Ｄ　ロングボウ・アパッチのマニュアル辞典を渡す。誰が作ったのか知らないが、内容は操縦方法から詳しい説明と設計図と機密内容まで盛り込みが凄い。しかもあれだけ入れてページは３０ページ程・・・

一連の操作を覚えたフィリアに今回は射撃手兼副操縦士として乗り込んでもらい、僕は操縦する。

操縦出来るかだって？神様に頼んでいたお陰で、乗り込んだ瞬間、全てを理解できた。

＞＞トリップ１、これより離陸する。トリップ２－６は続け。＜＜

＞＞トリップ２、了解。＜＜

＞＞トリップ６、了解。＜＜

訓練を受けていないフィリアが乗っている為、ゆっくりと上昇させる。（今度、頼んでおこう・・・）

「凄い！本当に飛んだわ！小さい頃に龍に乗って以来だわ！」

物凄くテンションが高いです・・・操縦者又部隊を率いる者として

責任重大だが、心の中では軍人になりきった部分と同じテンションが走っていた。

１時間後、依頼のあった地域を飛行中・・・思った通り、ＦＬＩＲより百鬼夜行が２ｋｍ先に見えていた。ここまでの飛行で高度９００ｍを維持しつつ１００ｋｔで接近したが、何人かの人達とすれ違い、見られていたらしい。最後尾のトリップ６がご丁寧に数えていた・・・

四方八方に分散を指示し、様子を見る。魔物たちも目的地に近くなったのか横に広がっていた。数は数えきれないが、目の前のＨＭＤに女神界の情報が入り、数は１０万だという。因みに無視をすればヴィルヘルム国は滅びてしまうらしい・・・しかし、多いな。密集してくれているおかげで掃討しやすいけど。

１５００ｍ圏内に接近を確認し、全機に攻撃を命令する。

＞＞全機、Ｏｐｅｎ　ｆｉｒｅ！攻撃を許可する！＜＜

一斉攻撃が始まる。フィリアの動きを見守るが、なかなか精密な射撃に徹している。対地ミサイルのヘルファイアは密集しているゴブリンの掃討に適しており、機関砲は十分な効果があった。トリップ３と４はトリッキーな操縦を行いながらロケット弾をばら撒いているが、マネできそうにはない・・・

最初の攻撃で２０％の損失を確認し、更に攻撃を強める。ＦＬＩＲからはバラバラに散らばったベヒーモスの死体にグチャグチャになったゴブリンと思わしき内臓・・・３０ｍｍ弾を受け原形を留めていない魔物達・・・動物愛護団体が世界最高裁判所にて訴訟を起こすレベルだった。

周辺の警戒を任せているトリップ2より連絡が入る。

＞＞トリップ2より1へ、共和国軍の大部隊と思わしき軍勢を3km先に発見。＜＜

＞＞こちらトリップ1、了解。＜＜

予想していたより到着が早かったが、問題は無かった。既に魔物の軍勢も30％を切っており、逃げ出す魔物も多数確認出来ている。

共和国軍が戦場に到着した頃には、死体と軽いクレーターのみであった。

＝＝ヴィルヘルム共和国　部隊長side＝＝

30分前、、、

王族の単眼鏡をもらい遊びで周囲を見ていたが、これまで見た中であのような生物は初めてだ。鎧のお陰で動揺しないよう誤魔化していられたが、本心は違う！あれは生物なのか？わき腹と思わしきものより火を噴きながら排出される小さなもの・・・落ちたら巨大な爆発が起こり、魔物が吹き飛ばされている！

私は夢を見ているのか！

「ギュンター郷将、どうした？」

「あれを見よ！」

「あれ・・・鳥？」

「これを使え！」

単眼鏡を渡すとたちまち部下の顔色が変わった。人知を超えた存在を見たかのような顔であった・・・

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝

「全滅かな？」

魔物の軍団はほぼ壊滅状態となっており、何故か目の前のＨＭＤにエースコンバット風にミッションコンプリートと表示されていた。有難いのだが、遊びすぎでは？

とりあえず、兵士たちに感謝の言葉を伝え神界に帰ってもらう。次は依頼の報酬なのだが・・・穏便に行きそうにはないな・・・

着陸後、ヘリを消すも共和国軍討伐隊による質問の嵐・・・ヒトラー騎士団長が来てくれたおかげで、何とか収めてくれ、そのままキャンプへ連れて行かれ、２日間程連続パーティの主役となった・・・

パーティトラブルの段！

さてと・・・共和国直々の招待を受け、赴くとそこは国家クラスの王女・姫を中心とする国際パーティであった。皇帝の直々の招待だから謁見か何かかと思ったのだが・・・因みに服装は、アメリカ海軍将校の正装でフィリアはハリウッド女優が着そうなドレスで出席している。身分差が激しすぎる場所に出るには抵抗感がありすぎる！

窓側でフィリアと共にパーティが終わるのをじっと待つ・・・誰にも関わりたくないぜｏｔｚ

だが、それも長続きしなかった。

「貴方があの超規模魔物集団『イグニオン』を壊滅させたムラサメね？」

「な、何故それを？」

「国どころか大陸で噂になっているわよ！」

微妙に平野綾Ｖｏｉｃｅが響く王女は海上都市遥か遠くに位置するアトランティス王国第１王女メリッサ・フォン・アランであった。

フィリアからの情報であるがこのパーティの目的は国家間で友好の強化及び王子・王女の結婚相手探しだとか・・・サンバルディオ帝国は宗教的な意味で閉鎖的な為、参加はしていない。

「貴方、私と結婚してくれない？」

「はい！？」

唐突過ぎる言葉に戸惑ってしまうが、安易に言葉に出していいのか？

「しかし、旅人故・・・」
「私の国では関係ないわ。なんせ、王はどのような身分でも結婚して良いとのおうせだからね。」
国家の未来はいいのか？そしていいのかアトランティス王！
何というかハルヒノリでパーティのど真ん中まで連れて行かれ、ワインを御馳走に・・・永遠の未成年なのに無理やり飲まされた現実
ｏｒｚ
フィリアには外の応接室で待ってもらう様伝えておいてある。
アルコール度１％・・・ノンアルコールぐらい・・・無理か・・・
ん？
「失礼します、私はリッドンブルム帝国第４王女ユフィ・フォルド・ロム・ブルムです。」
「ど、どうも、、、、、」
ますます動き辛い状況になったぞ！周りからは（恐らく）各国の王女達！各国王子の睨みつける様な視線！何故、僕に執着するんだ！！！
「ブリタニア帝国第１王女のエリザベス・ミュ・ブリタニアです。私の婿殿となって下さいませんか？」
ま・た・か！たかが旅人に執着する王女って・・・ん？
「おい、旅人風情が・・・」
どう見ても嫌な王子が話し掛けてくる。こりゃ・・・喧嘩パターン

か？

「黙ってみてりゃ・・・旅人の分際で豪華な服装を着やがって！俺を超えたいからやってんだろ？」

こいつ・・・何言ってやがんだ？

「俺を超えるなんて誰が許した？俺は許可してないぞ？」

こんな奴に見下されるのは中学2年以来かな？不良たちに骨を折られるほど叩きのめされて似ているセリフを吐かれたな・・・

「謝れよ！俺に・・・な？」

「名乗ったらどうだ？」

「俺の名前を知らないのか？ふ・・・呆れたぜ！この国はこんな奴を招待・・・否、旅人という平民を招待した時点で問題だな。」

「そういえば言った自分は名乗って無かったぜ。」

よく映画とかドラマやアニメとかで自分から名乗れ！なんてセリフよく聞いたからね。

「旅人こと南雲村雨だ。以後、お見知りおきを・・・」

「どうせ明日には野垂れ死にだ。俺はアストロ帝国第1王子ヴァルサデスだ。」

右手敬礼をして立ち去ろうとするが・・・

「待てよ！」

「ぐふぅ！」

思いっきり腹パンを喰らい、地面に膝をついてしまった・・・

「非礼を詫びろ！死にたくないならな！」

更に地面に叩きつけられ、頭を革靴で押さえ込まれる・・・痛いぜ、これ。

「言えよ！旅人風情が！」

流石にここまでされては力は出せない・・・おまけに短剣を抜くような音も。

「これがあの盗賊団を壊滅させた男なんてね・・・失望したわ。」

「だろ？姉さん・・・」

「アストロ帝国第1王女か！」

「そうよ。」

正直、屈辱的だ・・・出来る限り面倒は起こしたくなかったのだが・・・

「やめなさい！ヴァルサデス王子！場所をわきまえなさい！」

「うるせぇ！平民がいた時点でわきまえなんて論外！」

止めに入ったのは主催国であるヴィルヘルム王国第2王女ガネッサだ。

「チッ・・・弱小国風情が！」

流石主催国王女・・・逆らえないらしいな。

「大丈夫？」
「申し訳ありません・・・」

手を差し伸べてもらい、立とうとするも右足が一時麻痺の影響で立つことが困難であった。すぐにフィリアが駆けつけて来て、少し離れたふかふかのソファに移動してもらい、ゆっくりパーティを眺めていることとした。

「バカ・・・」
「ん？」
「何でも無いわ・・・何かあったら、呼んでよね！」
「あのくらい大丈夫さ・・・昔と比べれば・・・」
「昔？」
「ガネッサ様！？」

横でガネッサ王女が一部始終の話を聞いていたらしい。

「村雨、君の昔話をしてくれないか？」
「僕のですか？覚えている限りお話しましょう。」

１０分程、今までの経緯について語った。

中学時代・・・中２だったか、よく不良グループに絡まれては嫌がらせを受けたり、稀にストレス解消用のサンドバッグにされたりと良くない学校生活だった。最後に絡まれたのは中２の修学旅行にホテルの１室に呼び出され多人数のリンチを喰らい両足骨折に加え、内蔵破裂、脳出血、危篤状態に陥った経験がある。
約１年近くの入院で偏差値の低い私立高校へ入学せざるをえず、防衛大学なんて夢のまた夢となった。おかげで家族からは見捨てられる始末・・・より冷遇され、完全に邪魔者・居候扱いされるはめに

なっていた。

「そう・・・ごめんなさい。嫌なこと聞いちゃって・・・辛かったわね。」

「気にしないでください。それよりパーティ楽しんでください！」

「部屋用意しとくわね。特別なスウィートルームにね♪」

海洋国家への道

次の日、ガネッサ王女に別れを告げ、目的地であるブリテンを目指す。

そこから出るユージニア大陸への定期便に乗る予定だ。

国境を出るまではヒトラー騎士団長が率いる新生騎士団の護衛を受けていた。

現在は、どこの国境にも位置しない巨大山脈『ティターン』の旅路を歩いている。

ティターンは標高９２９０ｍ（女神界情報）で大陸の中心を横切っている山脈とのことで、生息魔物はゴブリンチーフ、ベヒーモス、ミノタロウス、ボム、その他多数の魔物が生息している。生存率は８０％とのこと・・・滅多に人は通らず、ブリテンへ向かう人のほとんどは湖のルートを使用している。

今回、山脈を通る理由は湖ルートより近いとのことで、Ｍ４（ダットサイト）で武装し、山道を歩いている。因みに山岳歩兵仕様の装備で歩いている・・・こだわりはないが。

道のりではけもの道だったり、洞窟だったり、山道だったり・・・どこかのＲＰＧのような気がしているも、細かいことは気にしないっと・・・

しばらく進むと、ＲＰＧでお約束のボス・・・カイザーベヒーモスが登場した。ご丁寧にＦＦ１３仕様で既に第２形態になっている。

誰かと争ったのかな？

急ぎではないものの気分で赤外線ゴーグルで見ると、えらい異常な熱を体内で発しており、ちょっと実験してみたい事があった為・・・ちょっとマーベリックミサイルの標的となって頂こう。

ｉＰｈｏｎｅの支援要請アプリを開き、Ａ－１０を選択し、武装を固定武装はそのままＧＡＵ－８　３０ｍｍ機関砲（２０ｍｍ機関砲や７．７ｍｍ機関砲に５．５６ｍｍＮＡＴＯ弾も選択できる。弾によってステータスは変わる。）とし、マーベリックミサイルを満載で決定した。

カイザー君はこちらを睨みつけているが・・・なかなか動きだしそうな感じではなかった。ただ何かにい買っているのは身を持って感じている。鼻から煙出てますよ・・・＾＾；

少しすると手に持っている回転ノコギリ（？）を振り回しながら突撃してきたが、残念ながらマーベリックミサイルの直撃を受け力尽きてしまった。４発も同時に打ち込まれてしまったからね・・・エンジン音がし、空を見上げるとＡ－１０が羽を振りながら去っていくのを確認した。ちなみに村雨がｉＰｈｏｎｅ通じて召還した物・人は村雨が半径１０ｋｍ以上離れると強制的に消滅してしまう。ただ空の兵器限定で半径１０００ｋｍは飛行可能領域となっている。まぁ、設定次第で変更は出来るが・・・最適と思ったからね。

Ａ－１０を消し、更に道を進む・・・

「あれがＡ－１０という攻撃・・・機ね？凄いわ！以前、乗った攻撃ヘリでも思ったけどあれが飛ぶなんてね！」

フィリアは始めてみた航空機に興奮気味だ。横田基地の日米友好祭につれて行きたいぜ。

少し進んだ所に小屋があり、今日はここで寝泊りをするつもりだ。

小屋に入るとまずは安全性を確認し、その次に備品などを確認する。が、備品は無く、逆に盗まれた形跡があった。おそらく難民だろう・・・カイザーベヒーモスの死後、変に備品を担いだ難民がすれちがったからね・・・

中は意外にピカピカで貴族が立ち寄りそうな場所であったが、旅人用と外に書いてあった。

まずは現在の時刻は１１：３０・・・カイザーベヒーモス戦後（もろ戦ってはいない・・・）、以上に腹をすかせてしまい、ｉＰｈｏｎｅの料理アプリで探す探す探す・・・これは！

という事で、サイゼリアで大好物のミラノ風ドリアに普通のピザを召喚する。味はやっぱりサイゼリア！

フィリアは味に満足し、女性としては異常な量を食べていた。特に、ピザが気に入ったらしい・・・ついでで召喚したタバスコもピザの味に見事にマッチしており、何よりフィリアの食べっぷりが良かった。

さて、飯を食った所でゲームだ！今回はＰＳＰのエースコンバットＸ２にて２人で協力プレイ！

ということで１日が経過し、次の日の朝出発・・・まさか夜中まで続けるとは・・・Ｆ－４縛りプレイはもう御免だｏｒｚ

結局、最終ステージにて１０回もスレイマニにＦ－４で敗北し、ファルケンレーザーでフルボッコ撃墜という結末に至った・・・ちなみにグラフィックはアサルトホライゾン仕様となっている。オーバースペック？女神製だからいいの！御丁寧にゲームを開くと右下にがすとちゃんが協力したと表示されている。ありがたや～！

眠気に負けず、ＢＯＳＳのブラックコーヒーを飲みイザッ！出発！下山しつつ途中で盗賊とエンカウント・・・

「兄ちゃんよ。殺しはしないから女と金目の物を置いて行きな！」
「また盗賊かよ！」
「また盗賊かよ！と声がする！」
「声を聞いてやってくる！」
「我ら！」
「ブリテン盗賊団！」
「チャーチルが立ちはだかる！」

また政治家の名前かよ！

今度はＢ－５２Ｈで７５０ポンド爆弾の絨毯爆撃にでも巻き込ませようか！と思ったが、穏便な解決策を考える。

「とりあえず話し合いで・・・」
「話し合いは受け付けない！」
「それが！」
「チャーチル団！」

もう突っ込むの疲れたわ・・・

「村雨君、提案があるんだけど？」

「ん？」

ちょっとヒソヒソ話しに付き合う・・・

「我らチャーチルを余所に！」

「話し合うなど言語道断！」

「残念ながら！」

「死んでもらいましょう！」

襲いかかる手前・・・空からＢ－２より落とされた無数のＭｋ－８２　５００ポンド爆弾が降りかかり、約６０人いたと思われる盗賊団は跡形も無く吹き飛ばされていた。

なんだったんだろ？あいつら・・・

フィリアによるとブリテンまではおよそ２ｋｍ程で険しい山も無いとの事だ。トラブルが無い事を祈りつつ進んでいく・・・

擬人戦闘機　Ｆ－２２Ａ　ラプター

山を下りたと思ったら今度はＦＦ２仕様のゴブリンに囲まれていた・・・数は約３０と多く、突発的な出来事なため、急遽何も考えずに適当な武器を召喚したらストライクフリーダムの高出力ビームライフルが出てきてしまった！確かにストライクフリーダムは好きだけどさ・・・せめてＧＮソードでも。

一応、流れ弾防止にオートリミッターを設定しているから貫通・外れても直ぐに消える仕様となっている。

早速、掃除を始める。

フィリアはＧＮライフル・・・うらやまします。

ビームライフルにＧＮライフル・・・オーバーキル過ぎてアッというまに排除してしまった。

２０・・・１０・・・・１・・・排除完了！

とりあえず、武器を消滅させブリテンへのルートを歩く・・・

５時間後、お昼の為、ブリテン領スコットランド平原の端で休憩をとっていた。フィリアがフランス軍レーションを温めている間、Ｆ－２２Ａを試しに召喚し、乗り心地を体験していた。まさかこの召喚で旅の仲間を増やすことになろうとは思わなかった。

「村雨君、出来たわよ！」

「今行く！」

いいにおいを放つレーションを食べている間、すっかりＦ－２２の事を忘れてしまっており、ふっと思い振り返る。

ない・・・・

ないぞ！！！

Ｆ－２２が無い！何処へ行った！？まさか新手の魔法を屈指した泥棒か！？

周囲に人の形跡はなく、ＦＦ１３仕様のアダマンタイマイの姿なら確認できていた。

消した覚えないのでフィリアと一緒に周辺を捜索する。が・・・見当たらなかった。

フィリアに聞くも収縮系の魔法は存在してないとのことだった。

ふっとアプリを思い出しｉＰｈｏｎｅを開くと、召喚リストからＦ－２２が消えており、この世界から消えたのだった・・・無駄足だったな。そういえば食べる前に消したような・・・年を取らないのに物忘れが激しいな・・・

それから数分後、奇妙な姿をした少女が空から降ってきたとさ・・・

どう見ても何かの擬人化です！本当にありがとうございました！と思いつつ声を掛けてみる。

「初めまして！女神界より派遣されたラプターよ。名前の遠り元の

姿はＦ－２２よ。宜しく！」

女神よ・・・今度はＦ－２２の擬人化少女か！可愛いい・・・

萌え萌え大戦に出てきそうなアーマーだな・・・Ｆ－２２の名残が各所にみられる。武器は自立生成機能により生成されている。主に近接戦闘から中距離戦闘を得意としているようだ。又、背中に２２の名残でジェットエンジンがジェットパックぽいのがあり、推力偏向も機能し、これにより飛行が可能。

実際、飛行する様子を見せてもらったが中々良い飛び方をしていた。

「ラプター、派遣目的は？」

「実は・・・女神界で擬人化戦闘機として幻想郷の防衛に従事していたけど、ちょっと失敗続きで首になり、村雨の旅のお供をしなさいと命令されて・・・」

「どんな失敗を？」

「田んぼを焼き払ったり、神社の鳥居を焼いてしまったり、山一つ焼き払ったりと・・・」

失敗というレベルじゃない！焼き払うって・・・

「実際、幻想郷は苦手だからそのような意識を持っていたら勝手に発射しちゃって＼＼＼」

トホホ・・・とほほ笑んでいる中・・・ラプターは顔を変え、村雨に問いた。

「村雨君・・・私を旅のお供として連れて行ってください！」

「（どうするかな？フィリアの意見はと思ったが・・・）」

「もし断ったら戦闘機に戻ってしまう・・・」

ちょっと迷い気味であったがフィリアと相談し、即決定となった。

「ラプター、これからよろしくな！」

「あ、ありがとうございます！」

クソ・・・満面の笑顔が可愛すぎるぜ。それに・・・抱く必要ないと思うのだが・・・胸があったってる！意外と巨乳だ！

「ごほん！では行きましょう！」

「了解・・・フィリア？」

「何よ！」

「もしかして怒らせちゃった？」

「う、う、う、煩いわね！別に嫉妬なんてしてないからね！／／／／／」

これはツンデレというやつか！そういえばお婆ちゃん（介護職４０年）も若い頃はツンデレだったとお爺ちゃん（介護職４１年）が言っていたな。てか、何故、ツンツンした？

「では行きましょ！」

「お、おお！」

「はぁ・・・」

＝＝フィリア　ｓｉｄｅ＝＝

どうしてこうなったのかしら・・・反対したかったけど、見捨てられなかったし。それにしてもあの顔は反則過ぎるわ！

それに村雨君にあんな態度をとってしまって・・・

恋愛的な意味で好きとかではないのに嫉妬なんて・・・しっかりしろ私！

＝＝ラプター　ｓｉｄｅ＝＝

今度こそ失敗はしない！パープルハート様やイストワール様、ネプギア様と約束は守らないと！彼の護衛を任務を全する！

けど、やさしい・・・失敗ごと思わず言ってしまったけど、すんなり受け入れてくれた。初めて・・・

＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝

「そうだ！名前決めないとな！」

「名前？私はラプターのままでいいけど・・・」

「いいじゃないか＾＾」

「そ、それじゃ・・・お願い／／／」

といっても名前どうしようか・・・よし、ノリエガだ！

「ノリエガはどうだ？」

「あ・・・ありがとう！良い名前だわ！」

こらこら・・・はしゃぐなって！

さて、Ｆ－２２の擬人戦闘機「ノリエガ」を加えた村雨達は目的地へ向け足を運ぶのであった。ただ・・・その前に一つの問題が降りかかった。

「チッ！まさかの盗賊団！」

「知っているわ！国１つ滅ぼした「ダークシディ」！気を付けて！

残虐性はスターリンの次に上・・・大陸で最も残虐な盗賊よ！」
「気を付けるもなにも問題ないわ！敵は２３０名！ノリエガ、突貫する。」
ノリエガが背中のジェットを噴射し、生成したＧＮソードで切りかかる！
「はｙ・・・」
盗賊は瞬間的の速さに追いつかず、切り捨てられる。
「我が村雨に手を出す者、ＧＮソードの錆にしてくれよ！」
「複数で掛かればいいはずだ！あの女を殺せ！」
「あんな鎧着ているなら鈍い動きしたできないはずだ！」
完全に盗賊達は村雨達を無視し、刃をノリエガに向ける。
「忘れ人だぞ！」
油断している盗賊達の背後からフィリアと共にＭ２４９を乱射し、次々と制圧していく。ノリエガの援護も兼ねて・・・
「ＧＮソードライフル！」
ＧＮソードライフルを召喚し、襲いかかってくる敵を次々と始末する。
バタバタと薙ぎ倒されていく盗賊団であるが、ボスと思わしき人物の慌て掛けた「撤退だ！」の声により盗賊団は撤退していった。次元の違いに負けを認めたと思ったが、間もなく本当の撤退理由が明

らかになった。

どうもブリトン騎士団による、追撃を受けていたらしい。

3人を横切っていく数百騎の重装騎士は盗賊を追い、団長らしき人物が目の前で足を止める。

「あなた達怪我は大丈夫？」

「大丈夫です。助かりました！」

「礼には及ばないわ。それよりその武器に興味があるわね。」

「残念ながらお渡しする事は出来ません。」

「別に本国に持ちかえりたいわけではないわ。でも、興味あるし・・・」

紙らしきものを渡される。

「明日、その宿屋で会いましょ！私は盗賊を追撃しないと・・・は！」

風の如く去って行く。地平線の向こうまで見守り2人の状態確認をする。

「フィリア！ノリエガ！大丈夫か！」

「ええ！私はばっちりよ！」

「私も！」

確認を終えた所で、再び出発する。それにしても・・・招待状を貰ってしまったな。

とりあえず、現地に行ったらフィリアはともかくノリエガの場合は

着用している装甲が目立ちすぎる！これはどうすればいいやらと思いつつイストワールへ電話をすると、返事はそのままでお願いしますとのことだった・・・色々と軍関係者から検問とか受けそうで心配だ・・・ＲＰＧとかなら重要人物の変わった服装に反応はしないが、リアルでは反応してしまからな。現にリブファール国で米軍のＡＣＵ迷彩着てえらく質問攻めにあったし・・・

ま、その時はその時か・・・

ブリトン帝国首都グレートブリテン（前書き）

最後らへんの展開を変えました。

ブリトン帝国首都グレートブリテン

巨大な城門に巨大な城壁・・・城壁から露出している巨大な２０ｃｍクラスの大砲・・・まさにブリテン帝国堅牢な城だ。サンバルディオ帝国と大違いだ・・・

この貿易都市としても機能している故、全ての城門に検問は敷かれておらず、フリーとなっている。だが、ノリエガは違った・・・

城に入ろうとした矢先、まとも（？）そうな兵士に詰め所へ連れて行かれ、しばらく尋問が続いたらしい。戻ってきた頃には、へとへとな顔で戻ってきた。２時間以上も尋問されては辛いわな・・・

真っ先に宿屋を探し、次に市場で船旅の準備に取り掛かる。衣類はｉＰｈｏｎｅから召喚するし、食事は船で最低限の食事は出る。ちょっとした備品とか購入していく・・・ｉＰｈｏｎｅに頼りすぎるのも良くないし・・・

衛生面を心配しつつ市場へ赴くと、これはまた素晴らしい！流石、貿易が盛んな首都ということもあってか、雑貨店からレストランに八百屋的な店に鮮魚店と数多い！又、中世の武器がずらりと並んだ中世マニアの脳汁が出てもおかしくない店！

これはヤヴァイ！本気でパヴァイ！

色々な店を周り必要な物を購入していった。ちなみに所持金はそこらの盗賊からかっぱらったお金だ。

一通り買い物を終えると、ちょっと一休み・・・大理石で出来たベ

ンチに座り昼食ＴＩＭＥにする。

流石に何も作っていなかった為、ｉＰｈｏｎｅより日本の料理の一つ・・・Ｏ☆Ｎ☆Ｇ☆Ｉ☆Ｒ☆Ｉを召喚。中身は紀州南高梅・たらこ・鮭となっている。

設定は設定で中身は何が入っているのかお楽しみ！ということで頂きます！

「しょっぱ！」

「これはなかなか！」

フィリアは梅干しに当たり、ノリエガはたらこに的中した。僕はフィリアと同じく梅干しだったが、日本人の僕にすればＶｅｒｙ Ｇｏｏｄ！な部類に入る。てか、懐かしい味に泣きそうになってしまったが・・・

「この料理は？」

「おにぎりといって僕の故郷の食べ物なんだ。中身は梅干しというすっぱい食べ物だまｔｔよ。」

「形も不思議だけど、このお米という食べ物の味が良すぎるわ。」

「お米サイコー！」

そういえば・・・この世界に来てからあまりお米とか見なかったな。

数分後、、、

休憩を終え、あの騎士団長の宿屋へ向かう。

道中、人に聞きながら向かっていったが、殆どの人が顔をやや真っ

青にして返答してきた。

この街の７噂の一つが、現在向かっている宿屋に関する呪いである。

宿屋『グラッドン』に宿泊した旅人は次の日にドラゴンにより必ず殺されるという迷信があり、噂を聞かない旅人以外は殆ど寄ってこない。何故、このような噂が流れたのかは、たまたま宿泊者がドラゴンに相次いで殺されたからという理由だ。

宿屋に到着し、受付へ招待状を見せると、いかにも特別そうな部屋へ案内され、何故か外部から鍵を掛けられてしまう。

逮捕フラグ？と思いきや、数時間後に騎士団長が入室して来る。

「このような待遇で申し訳ないわ。知っているかもしれないけど、この宿屋こと家は変な噂のお陰で収入激減してね・・・おっと！そうじゃなかったわ。君の持っている武器よ！武器！」

両手でホルスターのＭ９２Ｆとフィリアのｍ８２Ａ１を指さす・・・今気付いたが、重くないのか？

後々、聞いたのだが、本人曰く「お気に入りの武器ほど身近にあるほうが安心。」とのことだ。

とりあえず、ｉＰｈｏｎｅからＡＫ－４７からＳＣＡＲ－Ｈまで多数の現代火器を広い部屋へ並べた。念のため、弾は空砲仕様であり、反動のみ忠実。

とりあえず、超遅れながら自己紹介を・・・

「私はブリトン帝国軍第０８高機動特別戦術騎士団・・・通称イングランド騎士団団長のサテライザー・Ｅ・イングランドよ。宜しくね！」

（３人の自己紹介は省略、、、）

「という事で見させてもらいます！」

彼女は武器に目がないらしい・・・一つ一つの武器を持っては目がキラキラ光って独り言が超聞こえる！

「これは・・・不思議だ！」

「おお！なんというスマートなデザイン！」

「これは持ちやすい！」

既にマニアモードというレベルではないな・・・これは。

夜まで続き、今日は宿屋へ泊ることとなった。

部屋は３人別々となっており、久々の一人寝だ。今まではフィリアと一緒に寝ていたから、久しぶりの一人寝は妙な気分だ。だが、改めて思うと寂しい・・・何故だが、フィリアが恋しくなってしまった。

〜〜朝〜〜

巨大なあくびと共に目が覚める・・・今日も平和でありますように！と思いつつ部屋を出るとフィリアが飛びかかってきた。しかも涙ぐんで・・・

「怖い夢みちゃった・・・」

どうも聞いて欲しいとは思えない顔をしていた為、聞いておかない事にする・・・

ウィリアム・ビジョップ中佐のような夢と勝手に想像しておくが、これ以上考えると本人がかわいそうだ・・・

~~~1時間後~~~

ノリエガがなかなか起きない・・・仕方なく部屋へ行くとどうやら起きたばかりで装甲やジェットエンジンの手入れをしていた。

「ノックぐらいしてよ～＞＜」

「3回ノックしたぞ？」

「え？そうだったの？」

装甲の装着にそこまで時間が掛ったのかな？いや・・・ノックして20秒ほどだ・・・オリンピック選手の遺伝があったりして・・・ないかｏｒｚ

装甲の下は武装神姫のアーンヴァルＭｋ．２をモデルにしているらしい・・・ここで気づいたのだが、容姿がアーンヴァルＭｋ．２だ・・・外装は作品内にはない以外殆どまんまだ。

「な、なに？さっきからきょろきょろ・・・恥ずかしいよ／／／」

「すまん・・・ゲームで登場した人物（？）に似ていたものだから・・・」

「そんなに似ているかな？」

「まんまね・・・」
~~~

今度、アーンヴァルＭｋ．２を見せてやるか。

ブリトン帝国首都グレートブリテン（後書き）

ＶＳ銀河帝国を期待した方ごめんなさい・・・・

やったら余計に変な方向へ行く気がして・・・・

カリビア海海戦

グレートブリテン国際港　第２ターミナル
ここから出る船は海上都市アトランティスへ向かう船だ。料金は安いものの航路が安定したルートではない為、極めて危険な船旅と言えよう・・・だからといって通常料金では次の船が２日後になってしまう為、こちらの第２ターミナルとなっている。

「意外と近代的だな・・・用語が。」
「そう？」
「僕の世界だと空港とかで使う用語ばかりだからな。」
「とりあえず私たちが乗る船はあの・・・木造船ね。」
「カタログもあるわね・・・どれどれ？」

ブリテン貿易会社所属　　プリンス級旅客戦列艦「プリンス・ロイヤル」
第２ターミナル航行ルートに合わせて造船された艦船。民間会社所属で、旅客能力と戦列艦の能力を融合した船で高い戦闘能力を持つ（いわゆる武装旅客船）。砲門は５４門あり、４級海賊相手に１隻で対抗できる能力を持つ。航行部門は民間が担当し、火器部門はブリテン軍砲術士が担当する。

「砲門凄いな・・・あそこ全部を８８ｍｍ砲にすれば！」
「何言ってるの？」
「なんでもないやｏｒｚ」

ちなみに第２ターミナルの航路は建国当時より交易が盛んな便利ルートとして使われていたが、４００年前より海賊の大量出現により危険ルートとなってしまった。現在は、迂回してのルートで交易が

行われている。まだ使い続けるのは航行時間の短さと料金が売りだからだ。

「海賊ね・・・あまり接触したくないものだ・・・」

「ま、接触したらしたらでやるしかないけどね。」

早速、乗船すると旅客チケットを見てもらい、部屋まで案内してもらう。

部屋は寝台特急並みの狭さで４つのベッドに小さな窓のみとなっている。

乗務員より「航路は海賊多発地域となっており、当船は武装で８割を占めている為、お客様には御不便をお掛けします。」

約１時間後に、船は出航する。

しかし・・・突っ込み所満載過ぎて分からなくなってきたよ。とりあえず、もっと良い航路はなかったものか・・・

６時間後、、、

おやつＴＩＭＥということで、ｉＰｈｏｎｅより大好物であるバームクーヘンを召喚し、皆で食べている。この味が溜まらないんだわ！！！と夢中で食べている矢先のことであった・・・

巨大な轟音と共に静けさは去る事となった。

窓を急いでみると、水柱が次々と上がっていき、海賊船と並走しているのに気付いた・・・いや、何故気付かなかった・・・

旅客室は強力な鉄板で固められていると説明を受けたが、あまり信用できないな・・・

「戦うか・・・」
「え！？でも・・・」
「他がやらねば誰がやる？」
「だね。とっとと終わらせちゃおう！」

と、甲板へ上るが、そこに広がっていた光景はただパニックている船員といかにも新人砲撃手だ。こりゃ反撃しないわけだ・・・

「船長！どうゆう事ですか！？」
「も、申し訳ありません！1ヶ月間、海賊が出なかった物でほぼ全員研修生で・・・」
「（せめて一人ぐらいプロ乗せておけ・・・）」
「状況は！？」
「現在、当艦の包囲しており、少なくとも大型海賊船が5隻、中型海賊船を7隻確認しております。又、相手は恐怖の海賊『青髭海賊』です。」
「確か大型は９８人、中型は４２人だったはず・・・」
「とりあえず、無反動砲で対処する。フィリアは右、ノリエガは左、僕は後方甲板にて迎え撃つ。」

２人にカールグスタフと豊富な弾薬を渡し、分散する。

それぞれ海賊船へ攻撃が行われる。

＝＝フィリア　ｓｉｄｅ＝＝
意外と軽いのね・・・

最も近い中型海賊船に向け、攻撃を開始。精度が良いおかげで面白いように目標に当たるわね。ただ装填が面倒だけど・・・

「目標捕捉！攻撃ポイント特定（喫水線）！狙い撃つぜ！」

機動戦士ガンダム００のロックオン・ストラトスの台詞もいいわね。

放った弾頭は見事に喫水線に当たり、やや大きめの孔が出来ている。

＝＝ノリエガ　ｓｉｄｅ＝＝

カールグスタフよりハイパーバズーカてね！

分散する前にカールグスタフを村雨に返し、自前のハイパーバズーカ（一年戦争バージョン）を召喚する。もちろん、人間サイズにアレンジしている。

「たかが木造船如き・・・喫水線！」

ＩＨＡＤＤＳ（統合ヘルメット表示照準システム）に表示される情報を活用し、喫水線狙い次々とヒットさせていく。

＝＝Ａｌｌ　ｓｉｄｅ＝＝

轟音が響く甲板にてただ傍観する乗組員であったが、砲撃手に関しては傍観は軍人として恥じる行為。

一人の少年が叫ぶ。

「砲撃手！総員戦闘配置！配置に着け！」

この声により砲撃手は持ち場へ走っていき、戦闘態勢をわずか３０秒で整えた。
敵砲弾の着弾と共に、一斉射撃を開始する。
「一斉射撃、撃て！」
両舷から放たれた対艦焼夷弾は海賊船へ命中すると火災を起こす。
ブリトン帝国軍開発の対艦焼夷弾は命中すると灼熱の炎が発生し、木造船を簡単に焼いてしまう威力を持っている。
「すでに火災が上がっているな・・・対艦焼夷弾・・・恐るべし。」
命中した中型海賊船は１分程度で船全体で火災が起こった。
やる気になればやるじゃねぇかと少年は思いつつ、次の指示を出す。
＝＝村雨　ｓｉｄｅ＝＝
もう出番はないかなと思いつつ、２人と集合する。
「フィリアもノリエガも大丈夫そうだな。」
「ええ。」
「もっちろん！」
後は軍人の仕事だが、もう少し働くか・・・
両舷に１２７ｍｍ速射砲（改造して直接乗り込む仕様）を召喚する。
召喚した途端に、周囲にいる船員からは吃驚している様子があるが、

置いておいて、２人に乗り込んでもらい最終フェイズへ移行する。
１２７ｍｍ速射砲の連射はほぼ全ての人を驚かせた。中世ヨーロッパの時代には小型で高威力で連射なんてだれも想像はできないだろうな。

結局、襲撃してきた海賊船は全滅し、戦闘は終結した。１２７ｍｍ速射砲を収納し、客室へ戻る。

「もうへとへとだぜ・・・」
「私も・・・」
「なんというか、無駄に疲れた気が・・・」

ベッドへ横になると１０秒程度で寝てしまっていた。

それから・・・５時間後、、、

「お客様へお知らせいたします！間もなくアトランティスへ入港します。お忘れ物のないようご注意ください！間もなく到着です！」

船員の声が響き起床すると２人とも窓から外を眺めている。どうも２人で何か話し合った様子があるが、聞かないでおこう。

荷物の整理を行い、前部甲板へ出るとアトランティスの光が見えていた。

「時間は？」
「２２時４８分ね。」
「観光は明日になりそうだ。確か宿屋は近くにあったはずだ・・・」

地図からして港にあり、港の形はテイルズオブエクシリアの港と殆ど似ている。

到着したのは２３時３０分であり、起きて少ししか経っていないのにもうへとへとであった。

「なんだろうな・・・この疲労感。」

「旅疲れかもね。」

「もう駄目・・・」

宿屋へ行き、１部屋借りる。部屋に行き、ベッドへ横になった途端、３人とも意識はとんだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5140v/

異世界とチート能力

2011年10月28日04時19分発行